

前橋工業高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

表の見方 具体的数値項目 A: 充分達成できた B: 達成できた C: もう少しで達成できた D: 達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
			①	②	③			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 各教育活動に満足している生徒が70%以上である。	A	A	A	・生徒の満足、ほぼ満足の合計が92.4%であった。 ・わかりやすい授業や第一志望の進路実現に向けて努力した。 ・教員相互の研究授業や授業研究等を通して教育技術の向上を図った。	学校全体に対する満足度の高さを評価したい。 資格取得のありがたさは、社会人になって初めて実感することであるだけに、資格取得意識の向上は難しいと思うが、粘り強い指導をお願いしたい。 工業高校の特色を十分に発揮している成果の表れと思う。資格取得にむけた指導も、十分なモノと思われる。 生徒の満足度の高さから、貴校の日常的な取組とその成果が何れ日々のご努力に敬意を表します。 コロナウイルス感染症対策のためにインターンシップや校内行事を中止・延期せざるを得ない状況であることは深く理解しますが、それぞれ意欲ある生徒の入学、生徒の愛校心醸成につながる重要な事業と思いますので、可能な範囲で代替策の実施を期待します。 評価項目に積極的に取り組んでの高い評価になっていることに感謝申し上げます。	・よりわかりやすい授業を行うために、研究授業や授業研究等を通して教員の授業力を高める。 ・学校での新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めるとともに、企業と連携し、実施に向け準備を進める。 ・感染対策を講じながら、目標を見つけ、ものづくりに取り組んでいく。また、技術向上を図れるよう、対策を練っていく。
		(2) 生徒が在学中に1回以上インターンシップに参加している。	B	A	A	・新型コロナウイルス感染拡大にともない、実施できなかった。		
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	(3) 工業の専長を活かしたものづくりに積極的に取り組み、実習内容に満足している生徒が70%以上である。	A	A	A	各科目においてコロナ禍で、ものづくりに対して前向きに取り組んでいた。大会も開かれ、目標を見据えながら一生懸命に感染防止を行いながら、頑張っていた。	・わかりやすい授業や魅力ある学校行事を展開し、さらに学校の魅力を高めるようにする。	
		(4) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	B	A	A	・生徒の満足、ほぼ満足の合計が85.8%であった。 ・生徒と職員が魅力ある学校作りに向けて努力した。 ・新型コロナウイルス感染拡大にともない、予定通りに実施できない行事があった。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(5) 資格取得指導に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A	・コロナ禍で放課後や朝、休日の資格指導がコロナ禍前のように出来ない中、家庭学習での資格の勉強の限界を生徒保護者に深く理解していただいた上での案内を徹底した。	・コロナ禍で放課後や朝、休日の資格指導がコロナ禍前のように出来ない中、家庭学習での資格の勉強の限界を生徒保護者に深く理解していただいた上での案内を徹底する。コロナ禍での資格指導のあり方を協議する	
		(6) 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が70%以上である。	A	A	A	・学校の学習指導に満足、ほぼ満足している生徒の合計が92.6%であった。また、授業に対して真剣に取り組んでいる生徒が92.26%であった。さらに、保護者が学校の学習指導に満足、ほぼ満足の合計が87.4%であった。 ・すべての授業でアクティブ・ラーニングによる授業実践を心掛け、実践した。		
	4 生徒は確かな学力を身につけていますか。	(7) 欠点保持者数は各学期で全校の10%以下である。	A	A	A	・2学期の欠点保持者数は生徒全体の7.4%であった。 ・長期欠席者に複数の欠点科目を抱えている傾向が見られた。	・次年度から年度進行で新学習指導要領が導入される。新学習指導要領の趣旨や改善点を踏まえて質の高い教育活動を展開する。 ・学習活動において基礎・基本をしっかりと押さえた、よりわかりやすい授業を展開するようにする。 ・学級担任と教科担任の連携を強化し、欠点科目を減らすよう努める。	
		(8) 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	A	A	A	・教育相談係やスクールカウンセラー、臨床心理士と連携して、支援が必要な生徒に対応した。 ・学年会を月に4回実施し、情報交換した。 ・オンラインシステムにより随時職員間の情報共有を行った。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による欠席・遅刻をなくし、1日平均遅刻者数は前年度の98%以下である。	A	A	A	学校と家庭で連絡が密にとれていて欠席や遅刻が続かないように未然防止が出来ている。職員間でも情報の共有が出来ており、家庭と連携しながら対応している。	・それぞれの分掌組織において、職員間の情報共有が促進するように努める。 ・欠席・遅刻は基本的な生活習慣が出来ていない特定の生徒に限られている場合が多い。改善できるよう常時家庭との連絡は必須である。何か問題がある場合は職員間で情報共有し、対応をする必要がある。 ・早期に受診する必要がある生徒へ医療機関への受診方法等について個別に相談を受ける体制を整えると同時に、家庭への協力依頼の方法等を検討したい。	
		(10) 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査の必要がある生徒の受診率は80%以上である。	C	A	A	・新型コロナウイルスの影響もあり、医療機関への受診率が低下していることが考えられる。また、保護者の協力についても得られないこともあるようである。		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(11) 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めている。	A	A	A	学期に1回学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見・対応を職員間で行い、家庭とも連携しながら対応している。	いじめの未然防止・早期発見・早期対応が速やかに出来るように、日頃から職員間の情報共有を強化する必要がある。担任・教科担任・生徒指図ですぐ対応できる雰囲気をつくる。 ・ホームページに掲載はされていますが、コロナ禍で全体に周知する時間がとれないのが現状です。生徒指導に係る行事等を使って、直接伝える時間を確保する。 ・生徒指導に係る講演会には必ず出てくる内容です。短い時間でもLHRなどを使ってSNSの利用について生徒に考えさせる時間を設ける。	
		(12) 学校は、「学校いじめ防止基本方針」について、1回以上生徒に説明している。	B	B	B	コロナ禍で集会の数が減り、生徒全体に直接説明する機会が無い。生徒指導だよりや教育相談だよりを掲示し、生徒に伝えている。		
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	(13) 学校は、生徒がSNS(ツイッターやラインなど)やインターネットの危険性や正しい利用方法などについて、1回以上は学ぶ機会をつくっている。	A	A	A	毎学期の始めや長期休業中などで常時SNSの利用については指導している。情報モラル教室やこころの教育授業などの講話も実施している。	入学してくる生徒が中学校で部活動をあまりできていないことが予想されるため、新入生歓迎会等を上手に活用することで、高校での部活動に興味を持ってもらい、入部率を高めたい。	
		(14) 部活動に積極的に取り組んでいますか。	A	A	A	活動制限が設けられている中で各部活動が大会に向けて部員を集め、日々の練習に取り組んでいる様子が見られた。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(15) 進路関係の行事やガイダンスを年5回以上実施する。	A	A	A	・新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じた上で、生徒の進学や就職に十分対応できる支援体制に努めた。今後は、課題点は改善し、良かった所は、さらに良くなるように努める。	④進路活動におけるオンライン試験の増加は喜ばしいことである。増加の要因はどこにあるのか知りたいところである。 進路指導は、十分に取り組んでいると思う。それでも進路先に違和感を感じたらムリに継続するのでは無く、時には退職・退学も辞さないことも重要！電通のような不幸は2度と繰り返さないためにも。 コロナ禍で予定した行事が行えないなどご苦労が多いことと推察しますが、その中においてガイダンス等を着実に実施されており、その結果が生徒の積極的な進路実現への取組につながっていると思います。	
		(16) 学校からの進路に関する情報について満足している保護者が80%以上である。	A	A	A	・進路に関する情報について、生徒や保護者が必要な情報を得られるように配慮した。特に、求人票をはじめ、進路情報は紙媒体から電子媒体に変更し、Googleフォームブックで時間も場所も問わず閲覧できるように工夫した。		
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(17) 進路について真剣に考え、その実現のために努力している生徒が70%以上である。	A	A	A	・各自が将来を見据えた進路活動を行い、主体的に進路を選択し大半の生徒が第一志望先に進路実現ができた。	・主体的に進路を選択し、自己実現を図っていくことができるような生徒の育成を目指すため、今後も一人一人に寄り添った丁寧な進路指導を行う。 ・新年度に向けて、保護者や地域社会の要望を取り入れながら、キャリア教育・進路指導の推進を図る。 ・進路意識を高められるような進路行事の取組や基礎学力の向上を図り、第一志望の進路実現を目指す。また、組織的な進路指導体制の充実に努める。	
		(18) 学校の教育活動を人々に理解してもらうために学校公開を年3回実施している。	A	A	A	・6月に2週間にわたり全校三者面談を行い、全生徒、保護者がHR担任と学校生活や進路について面談した。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対応により、授業参観を実施できなかった。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(19) 保護者全員を対象とした学級担任による面談を年1回以上実施している。	A	A	A	・6月に2週間にわたり全校三者面談を行い、全生徒、保護者がHR担任と学校生活や進路について面談した。	・計画通り授業参観の準備を進めるとともに、実施できない場合でも、Webページ等を通じて授業の様子を随時発信し、本校の教育活動を多くの人に知っていただくようにする。 ・次年度は前工祭を実施する予定である。学校の魅力を多くの人に披露する場面として、学校一丸となって準備を進める。 ・全校三者面談は、学校生活や進路指導の相談の場として極めて有効であるため、次年度も継続して実施する。 来年度実施できるように準備を進めたい。	
		(20) PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が50%以上である。	A	A	A	コロナウイルス感染症対策のため、本年度は中止。		
	12 ICTを活用した業務改革を行っていますか。	(21) 学校の活動内容や生徒の状況を年12回以上伝え広報活動も行っている。	A	A	A	・「前工通信」(学校新聞)や学校案内を作成し、中学校へ配付した。 ・Webページを小まめに更新し、学校の情報や生徒の活躍を分かりやすく広報した。	・「前工通信」や学校案内を作成し、中学校をはじめ関係者に配布し、広報に努める。 ・Webページに授業や行事の様子や部活動、生徒の活躍などを掲載し、本校の魅力を広く発信する。	
		(22) ICTを活用した授業を週1回以上行っている。	A	A	A	・各授業でICT機器を最大限活用した。 ・分散登校ではICT端末を用いてオンライン授業を行った。		
VI 教育のデジタル化につとめていますか。	13 ICTを活用した業務改革を行っていますか。	(23) オンラインによる通知の割合が70%以上である。	B	A	A	・電子メールやWebサイトなどのオンラインシステムを活用して生徒・保護者に通知を行った。 ・生徒の欠席・遅刻連絡をGoogleFormsを用いてオンラインで行った。 ・職員間の連絡にGoogleClassroomを用いてオンラインで行った。	⑥デジタル化の活用は、歴史が浅いだけに試行錯誤の連続だと考える。現段階における活用実績を評価したい。 私自身デジタル化といわれても、良くわからない。アナログ世代ですので、ICTを活用したオンライン授業はメリット・デメリット双方ありますが、コロナ禍において有効な学習手段と考えますので、より効果的に運用しているよう研究を継続していただくとありがたいと思います。	・Chromebookを活用し、個別最適な学びを実施できるよう、各教科で努力する。 ・諸業務のDX化を促進し、一層の業務改善や負担軽減を図る。